

## I 学校評価について

### 1 目的

学校評価アンケートは、今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「教職員」「保護者」「児童生徒」による評価を行い、成果と課題を確認し、今後の学校運営の改善や教育水準の向上を図ることを目的として行う。

### 2 実施方法

(1)実施日 令和6年12月2日～13日

#### (2)実施内容

- ①学校経営計画に基づき、学校評価アンケート項目を設定
- ②対象者ごとに、学校評価アンケートをFormsで作成・配付・回収
- ③学校評価アンケートの回答ごとに数値処理
- ④自由記述回答の整理

### 3 対象者及び回答状況

対象	回収率	回答者数	対象者数	対象内容	参考 R5回収率
教職員	100.0%	47人	47人	管理職、事務職員、非常勤講師、非常勤介助員 職業指導支援員、非常勤看護師、退職者を除く教職員	97.8%
保護者	67.3%	35人	52人	本校舎・分教室保護者	74.1%
生徒	52.8%	28人	53人	小学部、中学部、高等部、分教室の回答可能な生徒	90.6%

### 4 評価方法

A・Bを肯定的評価、C・Dを否定的評価とし、E及び無回答を除いて割合を算出する。

記号	選択肢	選択肢の意味合い	備考
A	そう思う	積極的肯定	・A+Bを「肯定的評価」とする
B	ややそう思う	消極的肯定	
C	あまりそう思わない	消極的否定	・C+Dを「否定的評価」とする
D	そう思わない	積極的否定	
E	わからない		・教職員は「E わからない」の回答欄はない

### 5 評価の分析

#### 回答パーセンテージによる評価

肯定的評価の割合90%未満を検討とし、80%未満を重点検討事項とする。

### 6 対象者別学校評価アンケート結果

学校評価アンケート回答集計結果(別紙)

## II 評価の分析

### 1 重点目標に係る評価の結果と分析

- 重点目標 I「児童生徒のニーズに応じた教育の実践と授業力・専門性の向上」

#### bc 生徒・保護者

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

#### a 職員

Q3 『本校では学校間接続を含めた連続性・一貫性のある学習計画や授業内容の充実を図りながら、児童生徒主体の授業づくりを進めていると思いますか』【検討】

肯定的な評価 83.0%      否定的な評価 17.0%

⇒ 各学部においては、本校の教育目標や学部目標の達成に向け学習に取り組んでいるが、実際の教育活動の場面では、学部間の接続が見えにくいことが、否定的評価が多い要因と思われる。『接続』という言葉が直接的なものという限定的な意識にとらわれず、次の学部・学習段階を意識しながら授業計画を作成する必要もあると考えられる。その点も意識しながら計画を立てて学習活動を実践していくようにしていきたい。

■ 重点目標Ⅱ「発達段階に応じたキャリア教育の充実」

生徒・保護者・職員

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

■ 重点目標Ⅲ「地域連携に基づいた教育活動の充実とセンター的機能の充実」

ca 生徒・職員

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

b 保護者

Q5 『学校は、ご家庭の困り感、お子さんの困り感を理解しながら、福祉サービスや医療、行政などと連携を図り相談に応じていると思いますか』

肯定的な評価 90.9% 否定的な評価 9.1%

⇒ 家庭や児童生徒の困り感や状況の確認をしながら校内で共有し、関係機関と連携をとりながら、支援会議等随時実施している。職員が状況確認を丁寧にして進めていくことを確認したい。また、支援会議後の様子の変化等も関係機関と状況把握に努めながら、家庭や児童生徒にとってのニーズに沿ったものになっているのかも確認しながら丁寧に進めていく必要がある。

■ 重点目標Ⅳ「健康・安全教育の推進といじめ対策組織を中核とした未然防止の徹底」

c 生徒

Q6 『あなたは、学校給食に満足していますか』【重点的検討事項】

肯定的な評価 77.7% 否定的な評価 22.3%

⇒ 釜石市の給食センターの利用も2年目を迎え、要望のあった温かくておいしい給食が提供されている。しかし、一部の生徒にとっては食事の量が少ないと感じていたり、パン食が多かったりすることで肯定的評価が下がっていると思われる。市内の学校との関わりがあることだが、本校の児童生徒の要望を届けていくように努めたい。

b 保護者

Q7 『学校は、満足できる学校給食を提供していると思いますか』【検討】

肯定的な評価 80% 否定的な評価 20%

⇒ 昨年度に比べて約20%否定的評価が増えた項目である。生徒の否定的評価とほぼ同程度であることから、家庭での話題となり保護者も否定的な評価をするに至ったのではないかと推察される。生徒の対応と同様、市の給食センターに要望として届けたい。

a 職員

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

■ 重点目標Ⅴ「防災・復興教育の推進」

cb 生徒・保護者

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

a 職員

Q15 『本校では、副読本や絵本を活用した教育活動に取り組みながら、復興教育が十分に行われていると思いますか』【重点的検討事項】

肯定的な評価 68.0% 否定的な評価 32.0%

⇒ 昨年度と質問項目を変更したため一概に比較できないが、前年度比25%肯定的評価が減少している。復興教育にかかわる「いきる」「かかわる」「そだてる」の3つの価値について教職員は理解しながら指導にあたっていると考えられるが、新項目にある『「副読本」「絵本」の活用をして』という箇所にも不十分さを感じた職員が多かったと考える。次年度以降、関係分掌と連携しながら児童生徒の実態に合わせた活用について図っていきたい。

■ 重点目標Ⅵ「信頼できる学校づくりに向け、服務規律を確保する」

abc 生徒・保護者・職員

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

## ■ 重点目標Ⅶ「その他」

### c 生徒

すべての項目において90%以上の肯定的評価である。

### b 保護者

Q12 『学校は、積極的に校内の様子や情報を保護者にお伝えしていると思いますか』

肯定的な評価 91.1% 否定的な評価 8.9%

⇒ 昨年度とくらべて肯定的評価が4%減少した。自由記述にも学校ホームページのブログの更新を促す要望があったり、職員からもホームページの記載内容について、過年度のデータのまま更新されていない箇所について指摘を受けることがあった。次年度に向けてホームページのリニューアルをすすめ、より分かりやすい内容になるよう工夫するとともに、ホームページの情報発信をすよう努めたい。

### a 職員

Q19 『あなたは、家庭のための時間や自分自身の自由時間を確保できていると思いますか』【重点的検討事項】

肯定的な評価 66.0% 否定的な評価 34.0%

⇒ 今年度新たに設けた目標項目であり、働き方改革とも関連する事項である。学部間での時間外在校等時間の平均により、評価が大きく異なっている。働き方改革に対しての個々の意識は浸透しているが、職員の多くは多忙と感じており、多忙化が解消されたと実感するまでには至っていない表れであると考えられる。学部での業務改善については、従来より進めている部分であるので、先行事例等参考にしながら、年度末反省を生かし継続して取り組んでいきたい。

## 2 対象者ごとの分析

### (1) 児童生徒

評価項目に対する肯定的評価の割合は、90%以上であり、回答した児童生徒の多くは学校生活に満足していると考えられる。評価項目「7 いじめの問題への職員の対応」では、昨年度とくらべておよそ6%肯定的評価が減少している。この項目については、「Eわからない」と回答した児童等が6名おり、今年度のいじめアンケート、その後の事実確認においても昨年度とくらべていじめの疑い、認知について大幅に減少していることから日常的にいじめについて考える機会が少ないことも影響していると考えられる。しかし、児童生徒の様子観察等を引き続き丁寧に行い、いじめの早期発見は意識していく必要がある。

### (2) 保護者

ほとんどの項目で肯定的評価が90%以上である。評価項目「5 他機関との連携・相談」については肯定的評価が90%あまりとなっており、昨年度比9%の減少となっている。上記にある重点目標の評価で分析したとおり教職員で共通理解を図り、進めていきたい。また、『重点目標Ⅱ 発達段階に応じたキャリア教育充実』における「希望する進路実現への取組」が教職員は肯定的評価100%であるのに対して、保護者の「進路指導にあたっての情報提供の十分さ・適切なアドバイス」では肯定的評価が90%と10%の開きがある。職員としては、進路指導の専門的見地から生徒の実態や実習での評価等から適切な進路指導を行っているという認識が伺える。一方、保護者としては進路指導をすすめ、決定していくための情報提供が十分ではないと感じているケースがあったことが推察される。進路指導を進めるうえで、面談等を通して保護者の疑問等に対して丁寧な説明を行い、理解の深まりを促していく必要を感じる。また、生徒が納得して自己選択・自己決定できるように生徒の実態を考慮しながら、理解を深められるよう丁寧に説明しながら進路指導を進めていく意識をもって対応したい。

### (3) 職員

上記重点事項の評価にあげた2項目を除いて、概ね100%に近い肯定的評価となっている。そのなかで評価項目「10 児童生徒の体力づくり活動」についての肯定的評価が91%と低い傾向にある。健康の維持、体力の向上等を目標に、朝の日常生活の指導を中心として、各学部で体育館、グラウンドでそれぞれ体づくりに取り組み、児童生徒の実態に応じて走る時間や、周回数を決定して行っている。そういった時間・内容が十分ではないと感じる職員が少なからずいる表れと考えられる。時間の制約がある中で、効率的な体づくりの在り方について各学部で検討していく必要があると考えられる。

今回新設した評価項目「19 家族のための時間・自分の時間」が十分ではないと感じる職員が多いという現状を踏まえ、引き続き働き方改革の推進につなげていきたい。働きやすい環境づくりを進めることによって確保された時間を児童生徒に向き合う時間や教材の準備等の時間とすることが、子どもたちの学び・生活・安全等の肯定的な評価につながっていくと考える。

今後も児童生徒の自立と社会参加に向けて、保護者・関係機関・地域等とのつながりを大切にしながら、指導・支援の充実と本校教育活動の積極的な情報発信を心がけたい。